

科目名 (科目番号)	クリニカル看護実習Ⅱ (健康障害と看護) (時間割参照)	教員名	吉田和美 岡嶋妙子 中島美香 小川愛里 他	学科等	看護	必修	履修年次	3
				曜日・時限等	時間割表参照		単位数	3
				授業形態	実験・実習	オフィスアワー	各教員研究室	
授業概要	成人期の発達段階、発達課題をふまえ、患者の健康上の問題を科学的根拠に基づき理解し、健康障害のレベル、あるいはニーズに対応した看護を展開することで看護実践能力を習得する。さらに、学習者・将来の看護専門職者として、ふさわしい態度およびコミュニケーション能力・自己の看護観を育成する。							
目的・目標	目的：看護専門職者としての知識・技術・態度を身につけ、広く看護の対象を理解し対象の特性に応じた問題解決能力を養う。 目標：①看護の対象である人間を全人的・統合的に理解する。 ②看護の対象に応じて、科学的・個別的な看護を、安全性・安楽性かつ倫理的な配慮をもって実践できる基礎的能力を養う。 ③看護チームの一員として、多職種との連携による活動の意味を理解する。 ④自己の看護観を明確にしていくとともに、看護専門職者として学び続ける姿勢を養う。							
準備学習								
授 業 計 画	授業項目		到達目標・学習内容					
	到達目標							
	1．様々な健康段階にある対象とのかかわりを通して、看護における援助関係を形成できる。 2．様々な健康段階にある対象者の病態、検査、治療過程および生活に及ぼす影響について理解し看護を実践することができる。 3．対象者への援助の観点から、チーム医療について理解できる。 4．看護者として倫理的配慮ができる。 5．学習者・将来の専門職者として、ふさわしい態度及び看護観を深め明確にできる。							
	学習内容 様々な健康段階にある成人期の入院患者を1名以上受け持ち、その疾病・治療経過をふまえ、患者の全体像を理解し、既習の知識・技術の統合あるいは新たな学習により、必要な看護を実践・評価することを学習する。							
	詳細は実習要項「クリニカル看護実習Ⅰ・Ⅱ」を参照のこと。							
成績評価の方法・基準	クリニカル看護実習Ⅱ評価表に基づき評価を行う。							
教科書	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト							
参考図書	随時紹介する。							
教員からのメッセージ	これまでの成人看護学で使用したテキスト、演習を有効に活用し主体的に学習をしましょう。 様々な機能障害、経過をもつ患者さんの看護について理解を深めましょう、教員・臨地実習指導者の助言のもとに、看護の実際を一緒に学んでいきましょう。 総合病院、大学病院で勤務した看護師がこの授業を担当します。							